

平成 30 年度 第 3 回大垣市社会教育委員の会 議事録

日 時	平成 30 年 10 月 2 日 (火) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	マイスター倶楽部事務所 (東外側町)
次 第	<p>1 開会のことば</p> <p>2 「大垣市民の誓い」朗読</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>(1) 講話「マイスター倶楽部と地域づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育機関との連携 岐阜経済大学 副学長 高橋 利行 様 ・ マイスター倶楽部の取り組み コーディネーター 小川 尚紀 様 <p>(2) 質疑応答</p> <p>4 閉会のことば</p>
出席者【委員 6 名、事務局 11 名、計 17 名】	
・ 委員	
三宅 治、竹中 昌子、安田 義明、小藪 卓郎、岩下 里美、神谷 利行	
・ 事務局	
山本 譲 (教育長)、守屋 明彦 (教育委員会事務局長)、杉田 昭子 (市民活動推進課長)、坂 隆 (キッズピアおおがき子育て総合支援センター所長 兼 南部子育て支援センター所長)、細江 敦 (学校教育課長)、中井 正幸 (文化振興課長)、堀 恭寿 (社会教育スポーツ課長)、中山 健一郎 (社会教育スポーツ課参事)、窪田 美保 (社会教育スポーツ課主幹)、山田 嘉隆 (社会教育スポーツ課主査)、小原 良次 (社会教育指導員)	
欠席者【委員 4 名、事務局 3 名】	
平野 宏司、河村 義子、益川 浩一、松山 昌代、安藤 亨 (まちづくり推進課長 兼 市制 100 周年記念事業推進室長)、浅井 靖弘 (子育て支援課長)、山下 直人 (教育庶務課長)	
傍聴者【なし】	
事務局	開会の言葉
全員	「大垣市民の誓い」朗読

教育長	<p>あいさつ</p> <p>台風 24 号は大きな被害もなく過ぎ、安心している。先週金曜日頃から自主的に避難される方があった。その前の台風 21 号で大きな被害が出たこともあって、自主的に避難をされる方があったと思っている。台風 25 号も近づいており心配だ。</p> <p>東海北陸社会教育研究大会が大垣で開催されるということで、台風だけはぜひ避けるように心から願っている。大会については、委員の皆様には、準備から当日の運営まで、大変お世話になり、よろしくお願ひしたい。大会の折に訪れた街は、何かと心に残ることが多いと思う。大垣を訪れた参加者の皆様に、街と人の温かさが伝わるとよい。社会教育の現状等、情報交換をしていただいて、実りの多い大会になることを願っている。</p> <p>今日は、岐阜経済大学のマイスター倶楽部の事務所をお借りして、高等教育機関との連携をテーマに、高橋副学長さん、小川さんからお話を伺うことになっている。ぜひとも大学等との連携を深めた活動、あるいはマイスター倶楽部の活動を通して、地域づくりにつなげて生かしていくことがないかということで研修ができればと思う。委員の皆様の積極的な意見交流ができることを願ひ、あいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>本日の会議は、岐阜経済大の方で記録写真を撮るので、ご了承いただく。ここからの議事進行は、三宅議長に願ひする。</p>
	<p>※ 審議会公開の報告</p> <p>※ 傍聴人の許可（この日の傍聴人は「なし」）</p>
議長	<p>議事に入る。私もこうした実際の現場で、この会を行うことは初めてである。地学連携とよく言われるが、大学と地域と行政がどういう関わりを持ってやっていくかはなかなか見えてこないが、今日はその機会として、様々な意見を交わし、これからの社会教育の方向性を持っていくために、いろいろな質問、提言がなされることを願う。</p>
副学長	<p>私からは、全般的なこと、岐阜経済大学がどのようなことを考えているかを話す。大学のことでは恐縮だが、来年 4 月からは、岐阜協立大学となる。ここに込められた思いは、教育研究の力、人間力、地域の力の 3 つの力を合わせた大学にしたいとの思いを込めた名称変更である。地域の力になりたい、地域の力を得て、やっていける大学になりたいと考えている。したがって、岐阜協立大学にとって、地域の皆様は大切な存在であり、地域の</p>

方々と一緒にやっていきたいという思いがある。50年までに建学した時から、4つの柱の一つとして「地域貢献」を挙げ、地域貢献をしていく大学として出発している。岐阜経済大学にとって、大垣、西濃の方々の力がなければやっていけないと考えている。

教育活動について説明する。来年度の募集パンフレットにも、経済学部は、「地域貢献をしていく大学」、「まちづくりを企画・実践していく大学」、「地元企業による人材育成」を挙げている。コースも「国際社会と日本コース」、「生活と環境コース」であり、後者は確実に地域を題材としたコースとなっている。そうしたところで学んでいくことが経済学科の進む道と考える。マイスター倶楽部はその中の一つで、こうした機会に取り上げていただき大変ありがたい。マイスター倶楽部はこれまで20年にわたり、大垣市でいろいろ活動して生きた。一つの区切りとして、皆さまから「こんなことをしたらどうか」「時代に合っていないのではないか」等、率直なご意見を聞かせていただき、21年目からの新しいマイスター倶楽部を考えていきたい。マイスター倶楽部は経済学科が中心となっているが、全学生1,300人のうち、経済学部経済学科は200人程度である。スタート時は、大学そのものも経済学部が大半だったが、今はスポーツ学科が増えて、高校生の人気に合わせている。公共政策科（公務員志望者の学科）を合わせても400人程度である。マイスター倶楽部を維持していくのは、人数的にも苦しくなってきた。

地域連携については、「マイスター倶楽部」を研究の一環として行っている。もちろん金儲けではない。例えば「どのようにしたら気楽に入れる店となるか」を考え、店に遊具を置いて、アンケートをとりながら検証していくなどを考えていく。「食育レストラン」は、四鳥と協力して、子どもたちに鰹節の味を味わせたいと考え活動している。十万石まつりでは、たらい舟の船頭として協力したり、参加したりしている。また、大垣市の消防団にも学生が入っている。学生は消防団活動を行い、奨学金ももらっている。学業、部活動の両立はなかなか難しいが。公務員、消防組合への就職を考えている子も多い。

また、ボランティア・ラーニングセンターという組織もある。ここでは、学内のボランティアの交通整理をしている。皆さまでも、経済大の子にボランティアの依頼があれば、このラーニングセンターを使っていただければありがたい。人数の都合で出せない時もあるが、声をかけていただきたい。さらに、ソフトピアジャパンの中に「ソフトピア共同研究室」を設け、スマホのアプリの開発をはじめ、大垣市の企業と連携して活動をしている。先日も、西部中学校の子が大学の授業を体験する事業に参加してもら

	<p>った。スマートホンのアプリについて、大学生が中学生を指導する。こうしたことは、学生にとって非常に刺激になる。</p> <p>近年、体育系の学生が多くを占めるようになった。今後は、体育系の学生の社会貢献活動が課題になると思われる。大垣の市民の歌ができたが、これに合わせて市民体操を開発している。大体完成したので、模範で踊るメンバーを募っている。間もなく披露できると思う。</p> <p>アスリート育成クラブもある。小さい子を中心に、夜の活動となるが、サッカー、ランニング、陸上等の部門に分けて、体育の指導をしている。この指導を通して、小さい子たちは、学校では味わえない活動をしている。これらは、地域連携推進センターで行っている事業である。これ以外のことも、提案、ご意見等あれば、ぜひお願いしたい。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>まちなか研究室マイスター倶楽部について説明する。</p> <p>学生時代からマイスター倶楽部の活動に携わり、卒業後は職員として働きながら活動を続けている。10年ぐらい活動をしてきた。マイスター倶楽部は設立後20年がたつので、その半分の期間に関わってきた。</p> <p>マイスター倶楽部は、1998年の10月に設立された「まちなか研究室」である。大きく3つの特徴がある。①中心市街地の中に存在していること。②様々な団体と協働型の事業を展開していること。③まちなか研究室で、地域づくりの研究室として活動していること。</p> <p>駅の南側、水門川沿いに立地し、大垣市の中心市街地（北は徳洲会病院から南は結びの地記念館）に位置している。マイスター倶楽部は、中心市街地の活性化を大きなテーマに据えている。協働については、関係者の皆さんと双方連携をしている。まちづくりの研究室については、菊本准教授の「地域経済論」のゼミを展開している。運営代表として経済学部の菊本先生、副代表として経済学部の高木先生に入らせていただいている。事務局には大学も入り、地域とのコーディネーターとして私が入って、学生との橋渡し役を行っている。学生の所属人数は、現在35名程度で活動している。経済の学生を中心に活動を進めている。</p> <p>マイスター倶楽部の始まりは、1998年の10月に大垣商工会議所の空き店舗対策モデル事業でスタートした。当時、岐阜経済大学の地域経済論を担当していた鈴木先生が中心になって、大垣駅前商店街に場所を提供していただき、大垣地域産業情報研究会の援助をいただき、商工会議所の半年間の空き店舗を埋めるモデル事業として、学生たちがここでゼミを行い、地域のことを研究する研究室としてスタートした。1990年代後半には、大店舗法の改正により、大型ショッピングセンターの出店に対して、規制を</p>

緩和する流れができ始めていた。それに合わせて、全国の商店街がシャッター通りとなる事態が生まれつつあった。このような中で、地域経済の現実を学生たちに理解させるかを考え、当時の鈴木先生は絶好の教材になるととらえた。大垣は1997年にマイカルが大垣駅の北側に出店する計画が持ち上がっていたが、結果的には住民の反対運動で断念した。しかし地元の関係者、中心市街地に住んでいる方は、マイカルが出店を断念をしたものの、中心商店街の今後に危機感を覚えるようになった。市の方でも中心市街地の活性化計画をつくり、様々なモデル事業を計画するようになった。この流れの中で、子育て交流プラザ、まちづくり工房、市民活動支援センターが生まれた。その中の一つがマイスター倶楽部であり、1999年4月にできた。当時は、駅前のとらやスポーツの横のうなぎの寝床のような場所であった。半年間のモデル事業の中で、「商店街事業者へのヒアリング調査」と「商店街の業種調査」を行った。半年間のモデル事業で終了する予定だったが、皆さんとの関係もでき、その後も継続することになった。この取り組みの中で、学割の店を学生が提案して実現したり、学生と共に取り組み夢マップを作成したりした。今でこそ、同様の研究室はあるが、当時、駅前に研究室を置くことは、とても珍しかったため、先進事例として、視察が多かった。

その後、2006年に四者協定を結び、新たな展開を始めた。大垣市中心市街地活性化のための四者協定は、大垣商工会議所、市商連、岐阜経済大学、大垣市の四者で中心市街地活性化のために、まちなか研究室を支援していくことになった。現在、大垣市と商工会議所からは助成金をいただいている。市商連からも活動の様々な支援をいただいている。なお、マイスター倶楽部の家賃は大学が支払っている。

岐阜経済大学の中でのマイスター倶楽部の位置づけは、地域連携推進センターがあり、さらに地域経済研究所、情報研究所、ボランティア・ラーニングセンターがある。マイスター倶楽部は地域経済研究所の組織内にあり、研究所が持っている「まちなか研究室」として位置づけられている。いわゆるクラブ、部活動とは、違う位置づけになっている。2008年の9月から、現在の場所に移転し活動してきた。

マイスター倶楽部の目的は大きく2つある。1つは「地域課題の解決に貢献していくこと」で、中心市街地の活性化を一番のテーマとしている。もう1つは、「地域課題の解決と結びついた実践的な学びの場であること」であり、大学の教育機関として取り組むこと。学生の学びや成長を重視しており、現在のアクティブラーニング、プロジェクトペーストラーニングの実践の場である。学生自身が興味関心のあること、地域の課題を結び付

けて、様々な団体の方と協働、協力しながら、研究活動に取り組んでいることを最大の特徴としている。

1年の活動を紹介する。教育を踏まえて、構造化された1年間の活動がある。大きく4つのファクターがある。1つ目は、4月から6月にかけて取り組むものとして、地域の実態把握がある。この中で、現状調べ、プロジェクトグループづくりがある。1年前の活動を引き継いで、プロジェクトを進めることもあるが、新たにプロジェクトを立ち上げ、活動していく。プロジェクトチームでは、地域がどうなっているのか、どんな課題があるのか、地域の人にはどんなことを考えているのか等、まずは現状を把握することを行っている。その上で、自分たちにできることを考え、活動計画を立て、企画発表会を6月頃に行っている。地域の課題を調べ、様々な関係者の話を聞きながら、「企画プロジェクト」を学生自身が発表し、より良いものにしていく。6月から12月には、企画実践という形で、企画書に書いた計画を様々な形で実践していく。学生たちは、プロジェクトを説明していくに当たり、様々なマネジメントをする力を身に付けていくことになる。こちらは、ハツラツ市で大垣のものを使った流しそうめん「ALL大垣流しそうめん」で、子どもたちに農業体験をさせる企画と合わせて行ったものである。

年度の最後には、活動報告書を作成し、関係者に1年間の活動の成果を発表する場を設けている。学生たちは、この報告書の作成、発表会を通して、文章作成力、発表する力を身に付けていく。

このように、マイスター倶楽部では、意識して学生たちの教育となるように、1年間の活動プログラムを立てている。これは、設立当初から、こうしたサイクルを意識しながら取り組んできた。

実際の活動内容について話す。様々な活動があるが、大きく分けると2つになる。1つ目は、「地域を盛り上げるための活動」、もう一つは「プロジェクト」で、これは学生自身が企画、計画して取り組む活動でもある。メンバー全員で取り組む活動として行っているイベントへの参加について話す。まず元気ハツラツ市への参加がある。これは、ハツラツ市が始まった当初から、学生がスタッフとして参加している。ハツラツ市は、第1日曜日に駅前通りを歩行者天国にして行っているイベントである。主にスタッフとして、場合によっては出店をする形で携わっている。大垣の夏祭りに出店する「納涼レストラン」がある。これは、大垣駅前商店街と一緒にあって出店し、焼き鳥、かき氷、焼きそば等、駅前商店街の皆さんと共に出店している。これは当初からの活動で、駅前商店街と共にあることの

土台となっている。「餅つき大会」は、毎年駅前商店街と共同で開催している。楽しみにしている人が多い行事の1つで、餅をつくために100人ぐらい並ぶことがある。リピーターの多いイベントになっている。20年続けてきたので、当時子どもとして参加した人たちが学生になり、自分たちが支える側になった人もいる。「たらい舟」の船頭の一部も、マイスター倶楽部をはじめとする学生が船頭として活動している。船も当時は6艘であったが、現在は24艘となった。学生の船頭も開設当初から続いている。現在は、大垣女子短大学の学生も船頭として活躍している。

テーマを決めて取り組むグループプロジェクトの活動について紹介する。2018年度に進めているプロジェクトの1つ目は、「食育レストラン」がある。子どもたちへの食育と商店街での居場所づくりを目指して、地元の料亭「四鳥」と連携し、子どもたちに料理をふるまうものがある。子どもたちに実際に鰹節を削って見せて、ご飯にかけて食べること等、行っている。子どもたちは、鰹節、鰹だしを触ったことがないし、学生自身もカンナで削る鰹節を始めて見て、このような形で食育を重視しながら、賑わいづくりを、商店街での居場所づくりを行っている。

今年の8月に開催した食育レストランの様子である。夏休みということもあり、マイスター倶楽部と隣の駐車場を開放し、親子バーベキューを行った。子どもたちは外で焼き、大変好評だった。四鳥からは飛騨牛のよい肉を提供していただいた。いずれにしても、学生たちが食育を意識し、子どもたちにも食育を感じさせることができた。次回は10月27日(土)に行う。お昼の時間にマイスター倶楽部を使って行う予定である。テーマは出汁とおでんである。多くの方にPRしたい。

2つ目は、「まちなかツーリズムプロジェクト」である。こちらは地域の事業所と学生が連携しながら、様々な地域資源を生かした商品開発を行っている。これも主に四鳥と連携し「マイとり弁当」を作っている。また「奥美濃古地鶏ラーメン」も作り、ハツラツ市で販売している。これらは、いずれも学生がアイデアを出し、商品化したものである。最近では9月のハツラツ市で、奥美濃古地鶏とラクレットチーズを使った「ラクレット古地鶏ドック」を販売した。奥美濃古地鶏の唐揚げに、ミンチを使ったソースをかけ、その上にラクレットチーズをかけたものが好評で、完売することができた。

3つ目は、商店街調査である。学生自身が大垣の商店街の状況を調査して、課題や問題点を見つけ、それを発信していこうというグループである。今年度は、大垣市と商工会議所が中心となって、中心市街地活性化協議会で、この商店街の空き店舗の状況を調べている。この事業に学生たちも入り、

連携してヒアリング、アンケート、あるいはフィールドワークに取り組んでいる。実際に空き店舗を見たい、物件を売りたい方に、学生がヒアリングに出向き、データをとり、大垣市、商工会議所、商店街が活用していくことを目指して、様々な商店街の調査をしている。

4つ目のプロジェクトとして「そうだ大垣へ行こう」がある。これは、学生ならではの発想で、大垣市のグルメや魅力を様々な媒体を利用して、情報発信をしていこうというプロジェクトである。学生が食べ歩きをして、その情報をフェイスブック等で紹介している。普段、学生が行かないようなお店も紹介している。またこのプロジェクトでは、マイスター倶楽部の情報発信もしている。

以上がマイスター倶楽部で取り組んでいる事業である。

ここで、これまでの取り組みをまとめる。

マイスター倶楽部はちょうど20年経つ。この20年を振り返ると、中心市街地の活性化政策がリンクしている部分が多いと言える。マイスター倶楽部ができた98年当時は、TMOが中心となって、様々な事業に取り組んだ時期であった。2006年には、マイスター倶楽部は4社協定を結び、大垣市の中心市街地活性化基本計画をもとに様々なハード事業が進められた。結びの地記念館、アクアウォークができ、この時期に、ハツラツ市も始まった。マイスター倶楽部でも、ハツラツ市への参加が活性化した。現在は、第2期計画に入ってきて、第1期の計画の課題を踏まえて、取り組んでいる。

第2期計画の課題は3つと考える。

1つ目は、「イベント時の賑わいを普段の賑わいにつなげるか」である。実際、平日に歩いている方は少ない。この課題に対応しているのが、「そうだ大垣へ行こう」プロジェクトである。

2つ目は、「中心市街地でのまちなか居住の増加」である。現在、駅前マンション等がずいぶん建ってきている。ヤナゲンの跡地にもマンションができる予定である。これにより、新しく移住される方が見込まれている。そうした方を商店街、中心市街地で、その地域で生活することにつなげていくかが課題である。この課題に対応するのが、食育レストランの取り組みである。住民がつどい、子どもたちが集まれるような場をつくり、この地域で消費し、また作るといった再生産ができることにつなげていきたい。

3つ目に、中心市街地でのスモールビジネスの起業を支援することである。空き店舗は20前後で推移している。こうした空き店舗に店を起業し

	<p>た方が入ることを支援している。現在では、空き店舗の状況を学生たちが調査し紹介している。ここから、中心市街地で店をやってみたい、事業をやりたいといった若い人が集まるような政策が必要だと考えている。</p> <p>このように地域の課題と学生たちのやりたいことをセットにして、取り組んでいけることがマイスター倶楽部の発想である。20年の歩みの中で、その時期ごとに地域課題も違うので、取り組んできたことにも違いがある。また、卒業生も20年間でたくさんいる。この取り組みで育った学生も各地域に巣立っている。</p>
議長	<p>経済大では、建学の精神に、地域貢献をもとに、地域課題の解決に向けて進めている。素晴らしい取り組みの成果を聞かせていただいた。皆様から、ご質問、ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>駅北側の大店舗は駐車場がある。駅前商店街を活性化しようと思うと、まず人に来てもらう必要がある。ただ、現状では、駐車場がないので難しい。駅前通りに少し駐車することができるが、落ち着いて買い物をすることができない。駐車場は、大きな課題の一つととらえる。</p>
コーディネーター	<p>元気ハツラツ市には、アクアウォークも参加していて、ここに駐車し、ハツラツ市に来ている人も多い。またアクアウォークはスタンプラリーの出発点になっている。ハツラツ市の日は、ある程度駐車することは公認されている。</p> <p>普段の買い物で、利用しにくいのは事実である。なおマイスター倶楽部にも専用の駐車場はない。ただ、南側にも民間の駐車場は増えてきている。少しでも利便性を高めることが必要であると思う。</p>
委員	<p>大垣に生まれ育ち、長年大垣で過ごしてきた。50年前のことを思うと、本町通り、駅前通りとも、いろいろな変遷があり、現在がある。私自身は青少年育成という役割だが、もともとは地元建設業の会社員であった。本町通り、駅前通りの商店の方の関わりもあった。郊外にお店を構えた方も多く、共立銀行までの駅前通りも、決していい状態とは言えない。マイスター倶楽部の活動は本当に素晴らしいが、まだまだ満足に至っていない状況かと思われる。今後、一層のお互いの協力が必要かと思われる。ここ20年の経験、人材もあるから、この後の更なる発展を願う。経済大の卒業生も、ぜひ大垣に仕事を求めてくれるようになるとありがたい。</p>

議長	<p>社会教育と学校との連携は意識して取り組んでいるが、高等教育機関との連携という、実際に何をすればよいかと言われるとはっきりしないのだが、そういった点で、ご意見はあるか。</p>
委員	<p>小中学校は「ふるさと大垣科」で、市内に出かけ、大垣について学んでいる。学んだことを保護者の皆様だけでなく、大垣市内の方に広げている。マイスター倶楽部の活動を聞いて、小中学生の子とどんな接点を持てるかを考えた。小学校については、イベントの参加はできるが、一緒に活動するとなると中学生かと思う。中学校3年生では、未来の大垣市について提言する場がある。今、数々の課題を聞いたが、この課題は中3の子にも教えてもらいたいと思う。自分たちが、大垣のことを真剣に考えていく機会とし、「自分ならこうしたい」と言えるようにしたい。</p> <p>大垣の中心であった所に灯りをともらいたい、お金儲けも大切だが、温かいふれあいにしたい、と大垣市民の一人として願う。</p> <p>ふるさと大垣科に、マイスター倶楽部の取り組みを取り入れることも一案であると考えている。</p>
議長	<p>ここまで街の中に入り込み、課題を見つけ、取り組んでみえることに、頭が下がる。</p>
委員	<p>岐阜協立大学となり、地域を大切にしていける大学として、新たなスタートを切ることに、マイスター倶楽部がこうした活動をしていることを改めて知った。取り組みが、イベントの一過性のものであってはならないと思う。商店街の活性化ももちろんであるが、まず中心市街地に魅力ある何かを作る必要がある。</p> <p>まずボランティア活動を学生たちが盛んにしているとのことであるが、小中学生は、大垣まつり、十万石まつりの清掃活動をボランティアで行っている。こうした中で、マイスター倶楽部について、小学校、中学校のころから知り、経済大のお兄さん、お姉さんが頼れる存在であり、そうした場所であることを浸透させていくことが必要だと思う。学生には、4年間学んだことを大垣として発展させてほしいと願う。</p> <p>食育レストランについては、大垣市でも食育に携わる方はたくさんいて、子どもたちに教えていただく場も多い。ボランティアとして地域に貢献していくのであれば、子ども食堂として貧困な子どもたちにアピールしていくこともよいかと思う。ちなみに、回数や募集はどうか。</p>

コーディネーター	2か月に1回ぐらい行っている。近隣の小学校にチラシを貼っている。またポスティングをしている。ただ無料で限定50名なので、どこまで広がっているのか、迷うところもある。始まったばかりであるが、できるだけ近隣から広がってほしいと思う。
委員	イベント行事で終わってしまうのではなく、地域活性化のための食育レストランであることを願うし、協立大学に進学したいという子が地元から育っていくような取り組みを願う。「ふるさと大垣科」の中で、キャリア教育の一つとして、学校の方で話をさせていただくのも一つの方法である。
委員	知らないことばかりであった。よいことはたくさんあるので、幅広い世代にPRして、マイスター倶楽部について知っていただくとよいと思う。私の地域でも、行事に大学生が関わっている。就職活動で地域活動をしたことが役立った、就職が大変有利だったと聞いている。こうした活動をしなが、学生自身が育っていくことがよいと思う。また、女性連合会では、結びの地記念館でお茶をたてている。この時に学生がたらい舟を初めて経験して、目が回ったことなどを元気に話し、若い方のエネルギーを感じている。そういった経験、自分でやってみると分かるという経験が、大きな学ぶ機会となっている。また、たらい舟は、市民だけでなく遠くの方も来ていただいている。東京の方はじめ、結構遠方から来ていただいております、大変喜んでおります。多くのことを学んでいく学生が増えることを願っているし、貴重な機会だと考えている。
議長	まちづくりの点から、市民活動推進課からご意見をいただきたい。
市民活動推進課	10月半ばから、「おむすび博」というイベントを行っている。市内の店や企業に協力いただいて、市民の方に体験していただいて、市内の魅力を再発見して発信していくというイベントである。昨年度は、マイスター倶楽部と四鳥のコラボで、講座を1つ提供していただいた。内容は、古地鶏関係のことであった。マイスター倶楽部とは、以前より連携をしており、活動を続けている。
議長	特に地域づくりに関わって、私ども上石津でも、時地区のふるさとづくりの中に同志社大学の学生が時山に住んで、地域課題に取り組んでいる。大学が地域に入り込み、そこまでやっていただくのは、ありがたいことだ。ただ、上石津で、大学に行っている学生が、そうした関わりを持っている

副学長	<p>かといえば難しい。マイスター倶楽部に地元の学生がどれくらいいるか。</p> <p>学生は、沖縄をはじめ、全国から集まってくる。特にスポーツ系統では、その傾向が強い。多くの方に知ってもらうためにも、マイスター倶楽部のような取り組みを様々な地域に発信していきたい。</p> <p>大学のよさを、①「どこへ発信したら浸透するのか」を研究したい。学生は新聞を取っていない。新聞は万能なメディアとは言えなくなっている。SNSも一案であるが、どのメディアを使うかは、大きな課題である。</p> <p>②「ふるさと大垣科」で、西部中は大学と連携し、まちづくりに対するアンケートを全員に行ってくれた。これを大学でまとめて、中学生にフィードバックすることができると考えている。こうした例を、高校、中学校に広げ、入試による連携ではなく、学習内容による連携を目指したいと考えている。</p>
教育長	<p>このマイスター倶楽部は、ゼミなのか、クラブ活動なのか。</p> <p>あるいは、学生は単位を取るために学習しているのか、実際はどんな思いで頑張っているのかを教えてください。</p>
コーディネーター	<p>マイスター倶楽部の活動は、課外活動の位置づけである。基本的には単位に関わらない活動である。ただし地域経済論のゼミは、この場所で行っている。ここでゼミとして学習することは、単位に関わる活動となっている。</p> <p>実際には、地域経済論を取っている学生は、ほぼマイスター倶楽部に所属し、活動している。ゼミ以外で活動している学生もいるが、ゼミで学び、マイスター倶楽部で活動している学生が中心となっている。</p>
教育長	<p>ゼミが理論的なものを持っていて、そこに集まる学生が活動し、理論の検証をしているという認識である。</p> <p>こうしたまちなかの研究を今後も続けていただき、広く学会等をはじめ、アピールしていただけるとありがたいと思う。こうしたことが、大垣市にとっても活性化の一助になると思う。また、商店街に実態調査をやっているが、お客側のニーズ調査を進めるとよいと思う。これらは、社会教育の地域づくりで大切にすることとつながるように思う。</p>
コーディネーター	<p>中心市街地の活性化をテーマにしているが、イコール商店街の活性化とは思っていない。私たちは、商店街が儲かるために活動しているわけではない。この地域が、暮らしている人にとって住みよいものになるための活動</p>

	<p>を大切にしている。商店街の調査は、様々な関連の中で進めている。食育レストラン、カフェ、あるいは学習支援をやっていた時期もある。様々な活性化に直接はつながらない生活環境の改善をポリシーとしてきた。今後もうこうしたことを大切にしていきたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>地域の課題が何であるか、この課題を解決するために、地域の方にどんな活動をしていけばいいのかを主体的に考えていただく場を、勉強しながら設けていくことが大切であると考えます。</p>
<p>議長</p>	<p>今日は、マイスター倶楽部について学ぶと共に、地域づくりについて、様々な角度から考えることができた。</p>

上記のとおり、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名者 _____